



県内景気の動向

**現状** 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数でみると、精密機械などは前月に比べ低下したが、一般機械や輸送機械、化学などは大幅のプラスとなったため、原指数、季節調整済指数ともにプラスとなった。

需要面では、大型店売上高はウエイトの高い飲食料品が引き続き堅調に推移したため、全店ベースでは2か月ぶりに前年を上回ったが、既存店ベースでは家電機器や衣料品などが伸び悩んでいるため、前月に続きマイナスとなった。一方、乗用車新車登録台数は消費税増税前の駆け込み需要が出はじめ3か月連続の大幅プラス、軽乗用車も4か月連続かつ大幅のプラスとなっている。民間非居住用建築着工床面積でみた民間設備投資は鉱工業用が3か月ぶりに前年を大きく下回ったものの、サービス業用は高水準で3か月ぶりの大幅プラス、商業用も前月に続き大幅のプラスとなったため、3業用計では前月に続き大幅のプラスとなった。新設住宅着工戸数は貸家が伸び悩んだものの、駆け込み需要が続いているとみられ3か月連続のプラス、さらに、公共工事も請負件数と金額が5か月連続とともに大幅のプラスとなり好調に推移している。

このような状況下、雇用情勢をみると、新規求人倍率は前月比低下したものの、有効求人倍率は2か月連続で前月上昇し、改善傾向がみられる。

これらの状況をまとめると、県内景気の現状は、製造業

の生産活動が再び上昇に転じ、需要面のほとんどで消費税増税前の駆け込み需要を中心に回復に向けた動きがみられるため、全体的に緩やかな回復が続いていると考えられる。

**今後の動向** 県内製造業の生産活動は、消費税増税前の駆け込み需要の反動減を見込んだ生産調整の動きが一部でみられようが、全体に駆け込み需要に伴う増産が広範囲の業種でみられ、緩やかな回復基調が続くものと考えられる。

需要面では、個人消費については、家計所得の伸び悩みや円安等に起因する値上げ、光熱費の上昇といった懸念材料はあるものの、駆け込み需要の動きが乗用車や家電製品といった耐久消費財や趣味・嗜好品、住宅リフォーム関連の工事などでは早めに出はじめ、直前にかけては食料品や生活用品などの日用品などのさまざまな商品やサービスに出てくるため、全体的に一層の回復感が出てくると思われる。一方、民間設備や新設住宅着工などの投資関連では駆け込み需要は徐々に減退していくものとみられる。

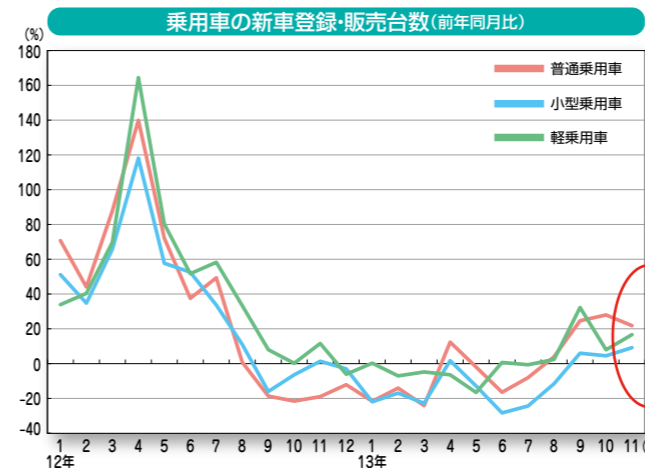
したがって、今後の県内景気は、生産活動面では緩やかな回復基調が続き、需要面では個人消費で好調な動きはみられようが、投資の面では総じて減退していくと考えられるため、全体的には緩やかな回復傾向の中で、弱含みの足踏み状態にとどまると考えられる。

「乗用車新車登録台数」は、3か月連続の大幅プラス

2013年11月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は100.1、前年同月比+1.0%、前月比-0.1%となり、前年比では7か月連続かつ大幅のプラスとなっているものの、前月比ではマイナスとなった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合(いわゆる「コアコア指数」)でみると、前年同月比+0.6%、前月比0.0%となった。今後の動向が注目される。「可処分所得(同)」は前月に続き前年を上回り、かつ大幅のプラスとなり(前年同月比+22.5%)、「家計消費支出(同)」は再び大幅のプラスとなった(同+29.7%)。

このような所得・消費環境のなか、11月の「大型店売上高(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は100店舗、前年は92店舗)」は前年同月比+2.8%で2か月ぶりに前年を上回った。品目別でみると、「衣料品」(同-5.6%)と「家電機器」(同-1.0%)はともに5か月連続で前年を下回り、「身の回り品」(同-2.6%)と「家庭用品」(同-1.4%)も前月に続きマイナスとなったが、ウエイトの高い「飲食料品」が6か月連続のプラス(同+5.9%)、「家具」もニケタのプラス(同+10.3%)となった。一方、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高は「飲食料品」(同+0.3%)と「家具」(同+7.8%)が前年を上回ったものの、「家電機器」(同-10.5%)や「衣料品」(同-6.3%)が大幅のマイナスとなったため、全体では2か月連続のマイナスとなった(同-1.6%)。

11月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」は、「普通乗用車(3ナンバー車)」が4か月連続かつ大幅のプラス(1,580台、前年同月比+21.9%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」も3か月連続のプラスとなっているため(1,468台、同+9.2%)、2車種合計では3か月連続の大幅プラスとなり、好調に推移している(3,048台、同+15.5%)。消費税増税前の駆け込み需要が出はじめているものとみられる。また、「軽乗用車」も4か月連続かつ大幅のプラスとなっている(2,102台、同+16.7%)。

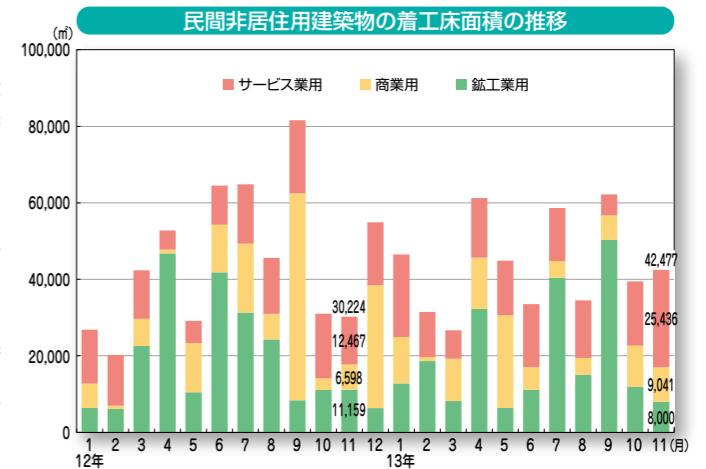


「民間非居住用建築着工床面積」は、前月に続き大幅のプラス

民間設備投資と関連の深い「民間非居住用建築着工床面積」(11月)は42,477㎡、前年同月比+40.5%で、前月に続き大

幅のプラスとなった。業種別にみると、「鉱工業用」は3か月ぶりに前年を大きく下回ったものの、「サービス業用」は高水準で3か月ぶりの大幅プラス、「商業用」も前月に続き大幅のプラスとなった(「鉱工業用」:8,000㎡、同-28.3%、「サービス業用」:25,436㎡、同+104.0%、「商業用」:9,041㎡、同+37.0%)。

また、11月のトラック新車登録台数は、「普通トラック(1ナンバー車)」が5か月連続かつ大幅のプラス(103台、同+25.6%)、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」も前月に続きプラスとなったため(182台、同+2.8%)、2車種合計では2か月連続の大幅プラスとなった(285台、同+10.0%)。



「新設住宅着工戸数」は、3か月連続のプラスとなったものの、伸び率は鈍化

11月の「新設住宅着工戸数」は948戸、前年同月比+8.8%で、3か月連続のプラスとなった。消費税増税前の駆け込み需要が続いているとみられるが、伸び率は鈍化してきた。利用関係別でみると、「貸家」は236戸、同-2.1%(大津市68戸など)で前月に続きマイナスとなったものの、「持家」は544戸、同+13.1%(大津市110戸、草津市63戸、東近江市52戸など)となり5か月連続で前年を大きく上回り、「分譲住宅」も165戸、同+10.7%(大津市57戸など)で、3か月連続大幅のプラスとなっている。内訳をみると、「分譲マンション」は申請がなかったものの(0戸、前年差-32戸)、「一戸建て」が3か月連続で前年を大きく上回った(165戸、同+48戸)。なお、給与住宅は3戸。

